

同志社大学史友会 無料公開イベント

文化史学科からはばたいた直木賞作家
門井慶喜さん 澤田瞳子さん
お二人に聞く 学生時代と京都

同志社大学文化史学科同窓会「史友会」では、二人の卒業生が直木三十五賞を受賞したことをうけ、お二人からお話を聞く会を2025年5月31日（土）、栄光館を会場に開催いたします。

コーディネーター 竹居明男（1973卒）・佐々木進（1974卒）

【お二人のプロフィール】

門井慶喜さんは1971年群馬県に生れ、1994年に同志社大学文学部文化学科文化史学専攻（現文化史学科）を卒業。2003年「キッドナッパーズ」でデビュー、第42回オール讀物推理小説新人賞を受賞。2015年の『東京帝大叡古教授』、2016年の『家康、江戸を建てる』で直木賞の候補となり、2017年の『銀河鉄道の父』で第158回直木賞を受賞。また大阪市の2016年度「咲くやこの花賞」を受賞。近作に『ゆうびんの父』（2024年）など。

澤田瞳子さんは1977年京都市生まれ。母は作家の澤田ふじ子さん。同志社女子中・高校を経て、2000年に同志社大学文学部文化学科文化史学専攻（現文化史学科）を卒業、同大学院博士前期課程を2002年に修了。時代小説のアンソロジーやエッセイの刊行をしたのち、2010年に『孤鷹の天』でデビュー、翌年第17回中山義秀文学賞を受賞。2015年の『若冲』、2017年の『火定』、2019年の『落花』、『能楽ものがたり 稚児桜』で直木賞の候補、2021年の『星落ちて、なお』で第165回直木賞を受賞。近作に『孤城 春たり』（2024年）など。2021年度より同志社大学客員教授に。

お二人は『灯台を読む』（2024年、共著）に名を連ね、2024年11月16日には「なにげに文士劇」の旗揚げ公演「放課後」にも共演されました。

日 時 2025年5月31日（土） 受付は午後1時から開始します
午後1時30分から3時

終了後、書籍販売・サイン会を行います
サインご希望の方は用紙にお名前の記入をお願いします

会 場 同志社女子大学栄光館（今出川キャンパス）
主催者 史友会（同志社大学）
連絡先 e-mail syamada@mail.doshisha.ac.jp